

1 計画の性格

- (1) 「子どもの読書活動の推進に関する法律」第9条第2項の規定に基づき、国や東京都の子ども読書活動推進計画を基本にするとともに、中央区の状況を踏まえ策定します。
- (2) 平成20年3月策定の「第一次計画」および25年3月策定の「第二次計画」の基本的な考えを継承するものとして策定します。
- (3) 「中央区基本構想」および「中央区基本計画2018」、「改訂中央区教育振興基本計画」との整合性を図るものとしします。

2 計画期間

平成30（2018）年度から平成34（2022）年度までの5年間とします。

第1章 中央区子ども読書活動の現状と課題

1 これまでの成果と課題

(1) これまでの成果

第二次計画では、「子どもの自主的な読書活動を推進するため、多種多様な読書のきっかけを様々な場面で提供し、さらなる読書環境の整備を図る」ことを目指しました。また、紙の本が持つ量感・質感やページをめくる楽しさを読書の重要な要素と位置付け、特に幼少期から紙の本に触れることで、本を心と身体で味わう読書活動の導入について推進しました。

第二次計画の34項目からなる計画の施策体系と主要な8項目の新規事業の達成状況を紹介します。

第二次中央区子ども読書活動推進計画（平成25年策定）

計画の施策体系

施策	事項	事業名	主な所管	
家庭・地域での取組	家庭における読書活動への支援	1 「赤ちゃんえほんリスト」の作成・配布	図書館、保健所	
		2 3歳児健診時のおすすめ図書リストの配布 <<新規>>		
		3 家庭内読書の推進 <<新規>>	図書館、子育て支援課、子ども家庭支援センター、指導室	
		4 子どもの読書に関する講演会や講座の実施		
	地域活動への支援	5 子ども読書活動推進のためのボランティアグループへの支援、活用	図書館、文化・生涯学習課	
		6 中央区の歴史や文化の伝承 <<新規>>	図書館、郷土天文館	
区立図書館での取組	読書環境の整備	7 京橋図書館の移転整備	図書館	
		8 児童室・ヤングアダルトコーナーの整備		
		9 学校図書館ページの開設 <<新規>>		
		10 ICTを活用した情報収集・提供及び活用 <<新規>>		
	読書活動の充実	11 おすすめ図書リストの作成		
		12 児童向けの図書館利用案内の作成		
		13 子ども向けお話し会の実施		
		14 子ども図書館員の実施		
		15 図書館見学・職場体験の受け入れ		
		16 図書館リサイクル資料の提供		
		17 配慮が必要な児童へのサービスの充実		
		18 図書館ホームページによる広報の充実		
	学校等との連携	19 図書館員等による出前お話し会やブックトークの実施		図書館、子育て支援課、子ども家庭支援センター、学務課、指導室
		20 学校図書館担当教諭等との連絡会の開催		
		21 団体貸出による資料提供の充実		
		22 新刊選書リストの提供 <<新規>>		
		23 中学生・高校生の利用促進 <<新規>>		
		24 おすすめ本の展示会の実施 <<新規>>		
学校での取組	読書環境の整備	25 読書時間の拡大	指導室、学校	
		26 学校図書館指導員の資質向上		
	読書活動の充実	27 図書資料の整備と充実	学務課、指導室、学校	
		28 各学校における魅力ある読書活動の実施		
		29 ボランティアの協力による読書活動の推進		
幼稚園・保育園及び児童館での取組	読書環境の整備	30 絵本コーナーの充実	幼稚園、保育園	
		31 児童館における児童図書の充実	子ども家庭支援センター	
		32 保護者に対する読み聞かせの啓発活動	幼稚園、保育園、子ども家庭支援センター、図書館	
		33 児童館・子育て交流サロン「あかちゃん天国」における読み聞かせの実施	子ども家庭支援センター	
		34 図書館員との連絡会の設置	幼稚園、保育園、図書館	

【第二次中央区子ども読書活動推進計画 新規事業（8項目）の達成状況】

1	3歳児健診時のおすすめ図書リストの配布	所管	図書館、保健所	達成
	<p><事業目標> 3歳児健診に来た親子を対象に、図書館で発行しているおすすめ図書リスト「このほんしってる」や図書館利用案内を配ることで、絵本にふれあうことの大切さを伝えていきます。また、お話し会の周知といった図書館利用のきっかけとなるような働きかけを行っていきます。</p>			
	<p><達成状況> 平成29年4月から、3歳児健診等で保健所に来所した親子を対象に「3さいから5さいむけブックリスト よんでよんで！」を配付し、親子で絵本と触れ合うことの大切さを伝えている。</p>			

2	家庭内読書の推進	所管	図書館、子育て支援課、子ども家庭支援センター、指導室	達成
	<p><事業目標> 親子のコミュニケーションを図りながら読書をする、いわゆる「家読（うちどく）」など各家庭での読書の取組がすすむように努めます。</p>			
	<p><達成状況> 図書館ホームページに家庭での読書の取り組みを推進する「家読（うちどく）」のリンク先を掲載するとともに、「赤ちゃん絵本リスト」配布時に図書館職員による読み聞かせを行っている。幼稚園や保育園、児童館、小学校では、本の貸出しや学校だよりなどによる家庭内読書の推進が図られている。</p>			

3	中央区の歴史や文化の伝承	所管	図書館、郷土天文館	達成
	<p><事業目標> 子どもたちに中央区の歴史や文化に親しんでもらうため、学校での地域学習に平成23・24年度に図書館で編集・作成した『Jr. 中央区文化・歴史ずかん』やデジタル化した地域資料などの活用を促進します。また、郷土天文館との連携を図り、中央区の文化財や図書に親しんでもらえるようなイベントを開催します。</p>			
	<p><達成状況> 小学校の図書館見学时に、『Jr. 中央区文化・歴史ずかん』を用いて中央区の歴史を解説するとともに、図書館所蔵の古地図を利用し、小学校で「中央区のまちの移り変わり」の講演を実施した。また、中央区まるごとミュージアムのイベントとして、図書館と郷土天文館が合同で読み聞かせと昔遊びの屋外イベントを実施した。</p>			

4	学校図書館ページの開設	所管	図書館	達成
	<p><事業目標> 図書館ホームページ内に「学校図書館ページ」を開設し、学校図書館への情報提供と学校図書館間の情報交換の場とします。</p>			
	<p><達成状況> 平成26年4月から、区立図書館ホームページ内に教員・保育士向けの「学校図書館ページ」を開設し、学校による区立図書館利用（団体貸出・図書館見学等）や自校図書館の蔵書検索および貸出管理、区立図書館と学校相互間の連絡など、多機能性による利便性の向上を図った。</p>			

	ICTを活用した情報収集・提供及び活用	所管	図書館	達成
5	<事業目標> 子ども用百科事典や図鑑などの有料データベースを学校図書館システムに導入し、教員が最新の情報を手に入れられるよう支援を行っていきます。			
	<達成状況> 平成26年4月から、児童向け百科事典のインターネット版ツールとして「ポプラディアネット」を図書館および小学校に導入し、調べ学習に最新の情報で取り組むことができるようになった。			

	新刊選書リストの提供	所管	図書館、学校	達成
6	<事業目標> 学校の教員向けに区立図書館が購入した新刊本の中から選書リストを作成し、学校へ提供します。また、学校から随時要望を受け付け、図書の充実につなげていきます。			
	<達成状況> 平成27年4月より、図書館ホームページで教員・保育士向けのおすすめ本を「新刊選書リスト」として配信（概ね月1回）している。また、児童館などではおすすめ本コーナーで新刊本の紹介を行っている。			

	中学生・高校生の利用促進	所管	図書館、学校	一部達成
7	<事業目標> 区立図書館のヤングアダルト（新：Teens）コーナーを充実・魅力あるものにするために、中学生・高校生の図書館サポーターを育成し、図書館業務に反映させていきます。また、学校訪問の機会や図書館ホームページ「10代」のページを活用して図書館のPRを行い、利用促進を図ります。			
	<事業内容> 中学生・高校生サポーターの育成・活用の検討は達成出来なかったが、図書館ホームページに10代向け「Teensのページ」を開設するとともに、職場体験を行った生徒による「中学生によるおすすめ本」などの館内展示を実施した。			

	おすすめ本の展示会の実施	所管	図書館、子育て支援課、子ども家庭支援センター、学務課、指導室	達成
8	<事業目標> 3歳以上の子どもたちから自分のおすすめ本の感想画や本の帯、ポップ等を作成してもらいます。その作品とともに図書館員のおすすめ本を展示することによって、読書活動及び図書館利用の促進を図ります。			
	<事業内容> 「子ども読書週間」や「秋の読書週間」をはじめ、図書館員が選んだおすすめ本の展示や、児童利用者のおすすめ本を「読書の本」に貼付する利用者参加型おすすめ本コーナーを設置している。また、児童館などでは、新刊のおすすめ本を掲示し紹介を行っている。			

(2) 区立施設における読書活動の現状と課題

① 区立図書館

平成 21 年度に区立小・中学校全校に導入した「学校図書館システム」により、オンラインで区立図書館所蔵の本の検索や貸出が可能となったことで、区立図書館の利用向上につながり、貸出冊数が増加しました。しかしながら、小学校に比べて中学校や幼稚園、保育園の利用が少ないことから、より一層のPRを行い、貸出を促進していく必要があります。

また、区立図書館 3 館（京橋・日本橋・月島）では、職員によるお話し会や読み聞かせボランティアによる読み聞かせ等を行っていますが、「保護者アンケート」によれば、半数を超える方が図書館のお話し会などに参加したくても「開催の曜日や時間が合わない」と回答されています。

今後は、お話し会や読み聞かせなどのボランティアへの支援・活用も含め、地域で活動しているボランティアと連携し、お話し会や読み聞かせの場を充実するなど、より多くの親子が参加できる体制をつくる必要があります。

さらに、中央区地域家庭教育推進協議会の家庭教育学習会における保護者向けの「子どもへの読み聞かせの大切さ」や「子どもがさまざまな本と出会う機会の提供」などの意識付けを目的とした読書や読み聞かせに関する活動と連携したイベントの共催などの取組が必要です。

② 学校と学校図書館

現在、全校一斉の読書活動における朝読書を小学校全 16 校、中学校全 4 校で実施しています。また、小学校では、教員や保護者・地域のボランティアなどにより、各校で読み聞かせが行われています。

児童・生徒の読書活動推進のためには、子どもたちにとって身近な学校図書館の果たす役割は大きく、物語や小説だけでなく、幅広い分野の図書を収集して、蔵書を魅力あるものにするとともに、区立図書館との連携など、より便利で利用しやすい学校図書館づくりが求められています。

今後は、学校における読書活動の拡充や学校図書館の利用機会の拡大、区立図書館との連携による読書機会の充実を図り、子どもたちにとって利用しやすい学校図書館づくりに取り組むことが必要です。

③ 幼稚園・保育園

各園では、図書コーナー等を設けて園児が落ち着いて読書できる環境づくりに努めるとともに、保育士やボランティアによる読み聞

かせを行っています。しかし、急速な園児の増加により、図書コーナーの確保が難しい園や、蔵書数が少ない園などもみられます。

今後は、図書館の大型絵本や紙芝居などの団体貸出や保育士への読み聞かせ技術の向上に向けたアドバイスなどに取り組む必要があります。

④ 児童館・子ども家庭支援センター

児童館・子ども家庭支援センターでは、職員・地域ボランティアによるお話し会や読み聞かせを行っています。また、対象年齢に応じたサービス展開もできており、来館した親子が楽しんでます。

今後は、区立図書館と連携した団体貸出の充実など、より多くの本に触れ合う機会の創出に取り組む必要があります。

(3) アンケート結果による読書活動の現状と課題

第三次計画の策定に際し、区内（京橋・日本橋・月島地域）の幼稚園・小学校・中学校9校園と保育園6園を抽出し、児童生徒および保護者を対象に子どもの読書活動に関するアンケートを行い、読書活動についての現状や意見・要望を把握しました。

さらには、子ども向けの読み聞かせ活動を行うボランティア団体などから、子どもや保護者の読書活動に関する現状や課題を聞き、これらの分析を通して、今後取り組む必要がある課題を抽出しました。

〈参考〉「子どもの読書活動について」アンケート

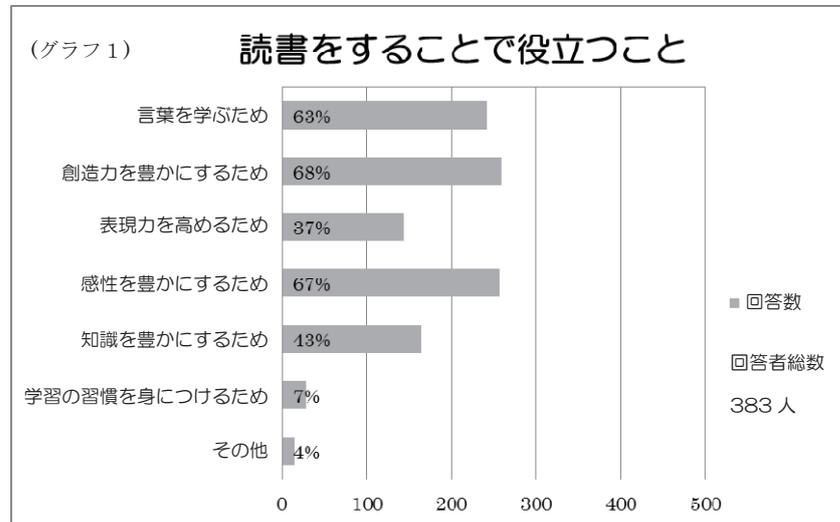
対象者 ・ 区立幼稚園および区立・私立保育園 4歳児ならびに区立
小学校2年生の保護者
・ 区立小学校5年生児童
・ 区立中学校2年生生徒 合計 988名

① 家庭や地域における読書活動

《子どもの成長に重要な役割を果たす「読書」機会の充実》

「保護者向けアンケート」によれば、「本の読み聞かせや読書はお子様の成長に役立つと思われませんか」の問いに、「思う」「少し思う」を合わせるとほぼ全員の保護者が役立つと考えており、そのうち、「読書をすることで役立つことはありますか」（複数回答可）の問いに対して、「創造力を豊かにする」（68%）と「感性を豊かにする」（67%）、「言葉を学ぶため」（63%）と6割を超え、次いで、「知識を豊かにするため」（43%）、「表現力を高めるため」（37%）でした。「その他」には、「相手が話す言葉を理解する能力の向上につながる」などの回答もありました。これらのことから、多くの保護者が、子

どもの成長に読書が役に立つと考えていることがうかがえます。
 今後も、引き続き子どもの成長に重要な役割を果たす読書の機会を充実させるための施策に取り組む必要があります。(グラフ1)

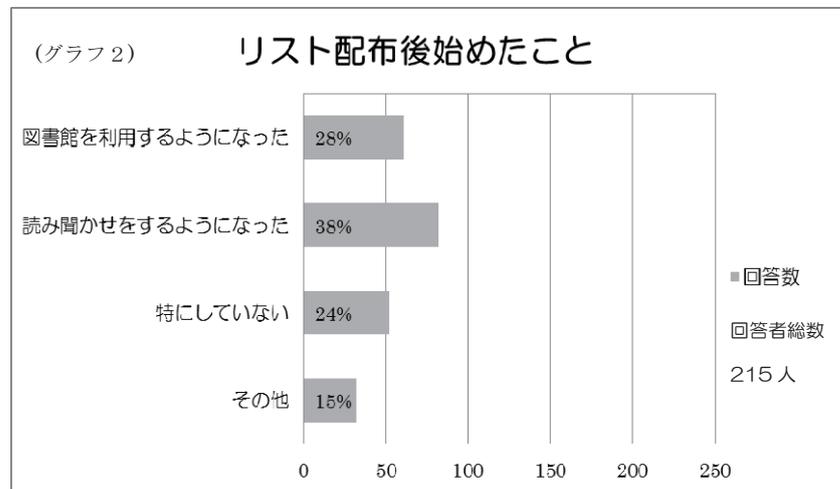


《読書活動のきっかけとなるブックリストの一層の活用》

図書館で配布している乳幼児向けブックリストを読んだことがあると回答した人は56%います。

このうち、ブックリスト配布後、「読み聞かせをするようになった」(38%)、「図書館を利用するようになった」(28%)と回答しており、ブックリストの配布が読書を始めのきっかけとなっています。

乳幼児期から生涯にわたる読書習慣を身につけられるよう、成長段階に応じ、子どもが本に出会い親しむ機会を提供していくため、今後は、リストのPRに加えて、掲載された本を図書館や幼稚園、保育園の読み聞かせで紹介するなどの施策を積極的に展開する必要があります。(グラフ2)



② 児童・生徒の読書活動

《小・中学生への読書の習慣づけ》

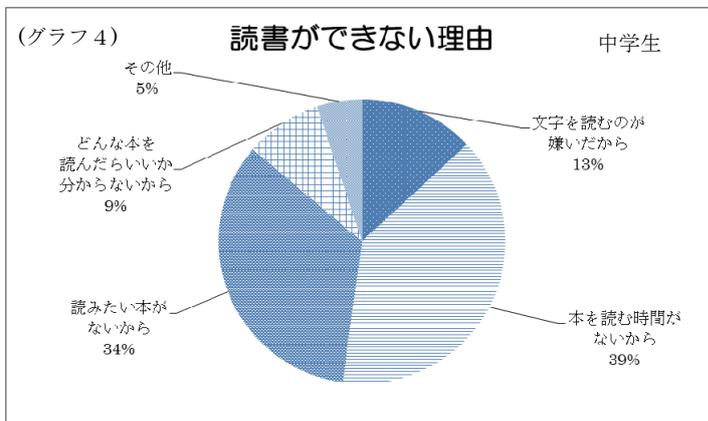
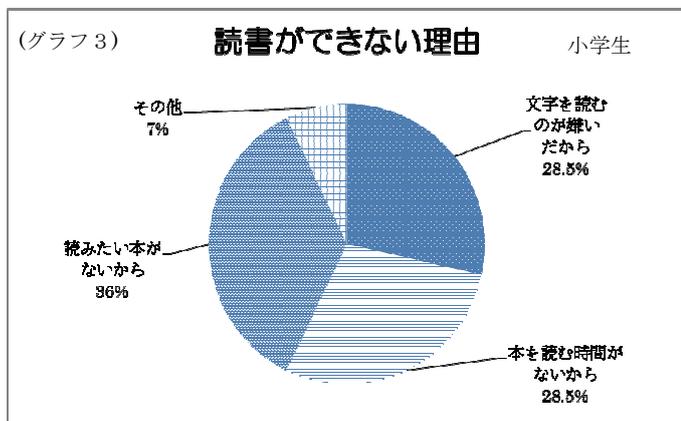
「あなたは家で本を読んだり、学校の図書室で本を借りたりしますか」の問いに、「はい」と回答した小学生（92%）、中学生（56%）となっており、学校での朝読書等も含まれていると思われますが、小学生は高い数値となっています。一方で中学生は、前回の66%からさらに低い数値となっています。

また、「平成28年度児童・生徒の学力向上を図るための調査結果」によると、本区立小学生の約48%と中学生の約75%が「毎日読書をするのではない」もしくは「毎日の読書時間が30分未満」となっています。これらのことから、小中学生に、読書が楽しみながら知識の習得や学習の基礎となる読解力、教養を育むことに役立つことを実感してもらい、継続的な習慣として身に付けてもらうことが求められています。

今後は、Teens（ティーンズ）向けの蔵書やおすすめ本の充実、ホームページでの情報発信など、読書に親しみを持って多くの本と出会い、継続して読書をすることで、毎日の読書習慣を身に付けていくことができる施策に取り組む必要があります。

《読書に親しむきっかけづくり》

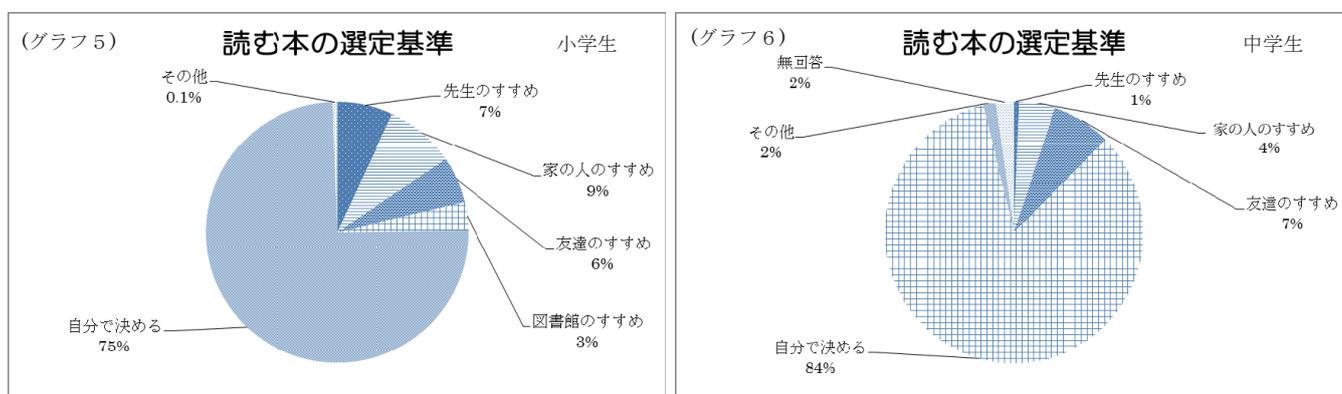
上記の問いに「いいえ」と回答した小学生では、「読みたい本がない」（36%）、「文字を読むのが嫌い」（約29%）、「本を読む時間がない」（約29%）となっています。中学生では、「本を読む時間がない」（39%）、「読みたい本がない」（34%）、「文字を読むのが嫌い」（13%）となっています。これらのことから、今後は、興味や関心を持って手にしてもらふことができる本の充実を図るとともに、読書に親しみと楽しみを持ってもらうきっかけとなるイベントの実施などに取り組む必要があります。（グラフ3、4）



《小・中学生が多くの本と出会うための情報提供の充実》

「本をどのようにして選んでいますか」の問いに、「自分で決める」小学生（75%）、中学生（84%）が最も高く、小学生、中学生ともに、「家の人」や「先生」、「図書館」のすすめがそれぞれ 10%未満となっていますが、中学生では、「テレビなどでの本の紹介」も本を選ぶ際の参考に使っている事例がありました。

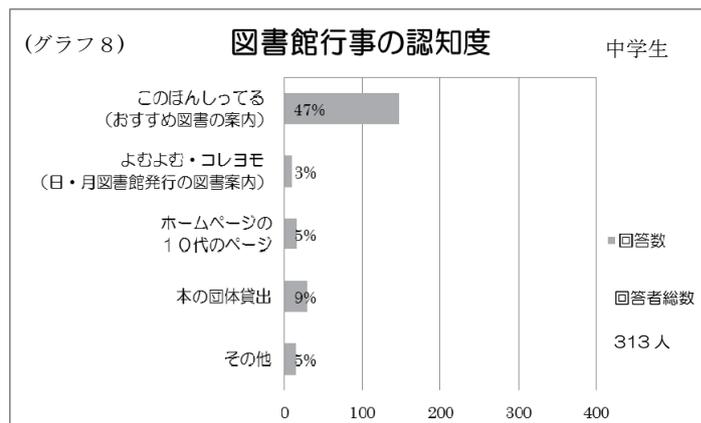
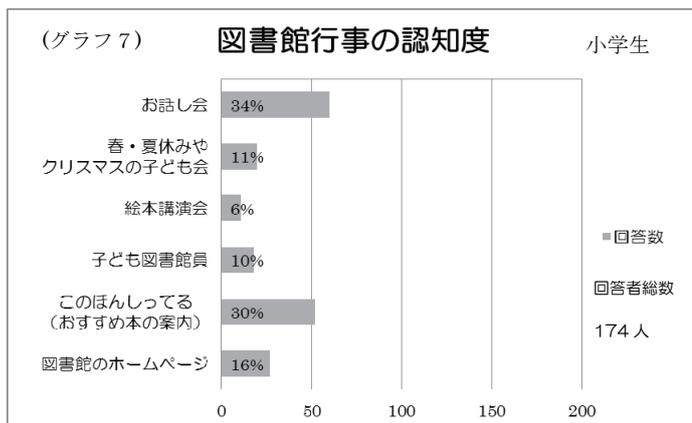
今後は、小・中学生が本を選ぶ際に、ブックリストや学校図書館への団体貸出などをより有効に活用し、「読んで良かった」と思える本の情報を充実させ提供する必要があります。（グラフ 5、6）



《小・中学生への区立図書館行事の周知と利用の拡大》

「区の図書館を利用したことがありますか」の問いに、小学生の8割以上、中学生の7割以上が「ある」と高い数値となっています。一方で、「図書館で行っているサービスの認知度」（複数回答可）については、小学生では「お話し会」（34%）、「このほんしってる」（30%）とあまり知られていないことがわかります。中学生では「このほんしってる（キラキラBOOKランキング）」（47%）について、一定の認知度がみられますが、図書案内やホームページの10代のページなどの認知度が10%以下となっています。

今後は、図書館がおすすめ本の紹介をはじめとして、さまざまな行事を行っていることを積極的に周知し、認知度の向上と利用の拡大に取り組む必要があります。（グラフ 7、8）



《小・中学校の学校図書館の充実》

幅広いジャンルや人気がある本の充実など、蔵書に関する要望が5割近く寄せられました。また、設備や施設については、明るさやゆっくりくつろいで読書や勉強ができる空間づくりを、利用については、貸出冊数や貸出期間、利用時間の拡大を望む声が多く寄せられました。

今後は、より快適で利用しやすい学校図書館づくりに向けた取組を行う必要があります。

《小・中学生から本の森ちゅうおう（仮称）への要望》

蔵書と設備や施設に関する要望が4割ずつ、合計8割寄せられました。

蔵書は、幅広いジャンルや人気がある本に加え、10代向けの本の充実を望む声が多く寄せられました。また、設備や施設面については、一般エリアと区別されたT e e n s（ティーンズ）コーナーの拡大、読書や勉強、友達と話をすることができるスペースなど、利用目的ごとの施設配置のほか、飲食が可能なスペース、自分で操作できる検索機や貸出機器類の充実を望む声が多く寄せられました。

本の森ちゅうおう（仮称）は、子どもたちにとっても明るく楽しく使いやすい施設として整備していきます。

以上の現状や課題を踏まえ、今後は、子どもたちを取り巻く読書環境に対応し、図書館と学校だけでなく家庭や地域などが連携し、体系的な取組を図り、子どもの読書活動を推進していきます。